

指導教員名	長坂泰之
-------	------

活動区分	地域活性化型	連携先	陸前高田ほんまる株式会社
	商業活性化型		陸前高田商工会
	イベント支援・運営型		

# ～ まちなか会ワークショップ企画・運営・参画～津波被災市街地の生き残りのための方策をともに探る～(岩手県陸前高田市)～

## 活動の様子



まちづくり会社の磐井社長からのご挨拶



地元のまちなか会の経営者の皆さんとの全体写真



プレゼンに向けて情報整理をするゼミ生

## 企画・活動概要

陸前高田市の中心市街地の賑わいを支えるまちなか会のメンバーから、「津波被災市街地の生き残りのための方策をともに探る」と題したワークショップを、流通科学大学の学生と開催したいとの要望があった。具体的には「若者目線の店選び」をテーマとした車座形式の意見交換会を実施し、SNS活用や購買行動について学生の視点を共有するとともに、学生からの提案もさせていただいた。また、津波の被災体験の語り、持続可能なまちづくりに向けた来街者アンケート調査の準備を通じ、地域課題の理解と実践的な学びの機会を得ることができた。



車座のフラットな関係で意見交換

## 経緯・背景・目的

本プロジェクトは、東日本大震災の被災地陸前高田市の復興の支援を目的に、流通科学大学長坂ゼミが岩手県陸前高田市において実施したゼミ合宿を通じ、地元事業者の皆さんとの意見交換や調査活動を通じて、復興の一助とするために行ったものである。毎年テーマを変えて支援を展開している。



まずは名刺交換。人となりを知ってもらう。

## 取り組む課題

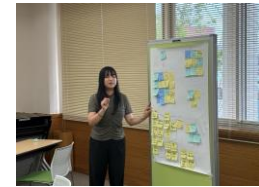
陸前高田まちなか会の事業者の皆さんの課題は、地域商業の売上維持と利益確保の両立、個店の競争力強化と連携の促進、さらにSNSを活用した情報発信力の向上が主要課題であった。また、若年層の来店動機の把握や、体験価値と「映え」を重視する消費行動への対応も重要なテーマであった。加えて、震災後のまちづくりにおける持続可能性や、地域内外の関係人口の創出も中長期的課題として認識されていた。



震災直後のことを話してくださる磐井さん

## 本学(学生)の役割

学生は、若者の消費行動やSNS利用実態をもとに、事業者との意見交換を主導し、ポストイットを用いて意見を可視化しながら議論を整理する役割を担った。また、アンケート調査の設計や実施準備(アンケート実施日は雨天中止)分担を行い、実践的な調査活動にも寄与した。さらに、被災体験の聞き取りやお礼状の作成を通じて、地域理解を深めるとともに、主体的に学びを言語化する課題もクリアした。



ゼミ生が現場で見て、感じたことをしっかりと伝えるプレゼン

## 活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

本活動を通じて、学生はSNSを活用した情報収集や購買行動の特徴を整理し、地域商業に対する具体的な提案を行う経験を得た。また、経営者との対話を通じて、情報発信の難しさや顧客獲得の工夫について実感的に理解した。さらに、被災者の話から復興の現実や人とのつながりの重要性を学び、教室では得られない実践的かつ多面的な学びを深めることができた。



本音が聞けるまちなか会の皆さんとの親睦会

## 指導教員および関係者の紹介

### <指導教員>



商学部  
マーケティング学科  
教授  
長坂泰之(ナガサキ ヤスユキ)  
<専門・担当科目等>  
流通政策、教養特講Ⅰ(流通)、  
中小企業経営論、  
ベンチャービジネス論、研究演習 他

長坂ゼミは一言で言うと、「地域をつくり、ヒトとコトと場所を育てる実践型マネジメントゼミ」です。ソフトのまちづくり系のゼミです!! 東日本大震災から15年。陸前高田の皆さんとは15年間ずっと仲良くさせていただいています。

### <関係者・企業等>

陸前高田ほんまる株式会社、陸前高田商工会  
代表取締役、副会長  
磐井正篤(イワイ セイトク)

毎年、長坂ゼミのゼミ生が陸前高田に来て様々な活動をしています。震災でつながりのある神戸の流通科学大学の長坂ゼミの皆さんのお越しをお待ちしています。